



T.K 日本語日本文学科 2年次生

参加期間： 2019年3月11日～3月20日（10日間）

I. プログラムについて

このプログラムは、台湾の静宜大学に行って日本語学科の学生に実習を行うというものです。

私が担当したクラスは2年生のクラスで、50分授業を1コマ、110分授業を1コマ担当しました。1クラスの人数は25人ほどでした。実習の2週間前に教案を作成、丸山先生に教案を提出し、何度か訂正していただきました。静宜大学の先生方には、実習の前日に教案やパワーポイントのアドバイスをして頂きました。

土曜日と日曜日には静宜大学のチューターさんが台中市内を案内して下さいます。バスに乗って台中の観光地や夜市に行き、台湾の美味しい食べ物や文化に触れました。チューターの皆さんは親切で優しく、すぐに打ち解けることが出来ました。

II. 参加希望者へのアドバイス

教壇経験がないまま教案を作成したので、この授業内容でいいのかと不安で何回も何回も悩みました。思い通りにいかないもありましたが、実習先の先生がサポートして下さったおかげでなんとか実習を終えることが出来ました。教案について自分一人で抱えて悩みすぎずに、もっと丸山先生や実習先の先生に相談すればよかったと思います。

休日には、静宜大学のチューターさんが台中市内を案内して下さいます。

中国語が話せなくても、チューターさんがサポートして下さるので安心して観光や買い物を楽しむことが出来ます。もし行きたい場所があれば、チューターさんにあらかじめ伝えておくの良いと思います。

大学の中に、日用品を買えるお店やコンビニがあるので、必要なものは基本的に何でも揃います。大学の中にあるタピオカミルクティー屋さんが美味しいので是非行ってみてください。店員さんも親切で、本当におすすめです。

教案を考えるのは決して簡単なことではなく、何日もかけて作った教案を一から作り直すこともありました。余裕をもって準備しておくことが大切だと思います。このプログラムを通して、日本語教育に対する考え方はもちろん、人としても成長することが出来ました。海外に行き、同学年の学生に日本語を教える経験はなかなかできないと思います。日本語実習プログラムに参加し、大学生のうちにこのような貴重な体験をすることが出来て良かったです。迷っている方はぜひ参加してみてください。







R.K 日本語日本文学科 2 年次生

参加期間： 2019 年 3 月 11 日～3 月 20 日（10 日間）

I. プログラムについて

実際の学習者に日本語を教えるのは今回の日本語指導実習プログラムが初めてでした。授業は自由テーマだった為、何を教えたいか、どんな方法で教えたら良いかなどから考え始め、教案とパワーポイントを作成するという流れで日本での準備を進めました。基礎演習の授業内でグループで教案を作成することしか経験がなかった私にとって 1 から 10 まですべて授業を作ることはすごく難しく、大変なことだったけれどもとても良い経験をしたと感じます。

台湾に渡った後、実際に日本語学科の先生や実習生の授業を見る機会が多くあり、授業を見学したときに学生同士で話させる自由な雰囲気での授業だったので想像していた授業の雰囲気とのギャップを強く感じたことは今でも心に残っています。実際に授業をしたときはものすごく緊張したけれど優しく、真面目な学生たちだったので楽しく授業をすることができました。

土日は台中市内を観光したりちょっと遠出をして日月潭に行き、日本とはまた違った雰囲気の街並みを感じられとても楽しかったです。

日本を出国する前も台湾に渡った後もしんどいことはたくさんあったけれど今回のプログラムでの経験は自分自身の成長に繋がったのではないかと強く感じ、また進路を考える良い機会でもあり、参加して本当に良かったと思います。





II. 参加希望者へのアドバイス

プログラムに参加する前は実習のこと、台湾に渡った後の生活のことなど不安なことはたくさんあると思います。でもそれ以上に自分自身初めての経験を楽しむという気持ちを持つことが一番大切だと思います（現地での生活面で困ったことがあっても大体は何とかできるので）。

あとは体調管理をしっかりとすることがとても大切です。





M.N 日本語日本文学科 2年次生

参加期間： 2019年3月11日～3月20日（10日間）

I. プログラムについて

私は、2年間学んできた日本語教育の知識を海外で試してみたい、台湾での実際の教育現場をこの目で見てみたい！という思いでプログラムへの参加を決意しました。実習日に近づくにつれて不安で仕方ない日々が続きましたが、実際に行ってみると10日間は本当にあっという間でした。台湾の教育現場は本当に刺激的で、私の中の日本語教育の考え方も大きく変わりました。私たちの場合はそれぞれ教壇での実習を2回ずつ担当したのですが、自分で教たいテーマを考えて教案を練り、丸山先生や現地の指導担当の先生に細かいアドバイスを頂きながら授業に臨みました。

II. 参加希望者へのアドバイス

海外での実習に不安はつきものだと思いますが、少しでも参加しようか迷ったらぜひ参加してほしいです。現地ではチューターさんが色々なサポートをしてくれるので、日本語しか話せなくても問題なく過ごせます。また、休日には台中市内や観光地を案内してくれるのでとても楽しく、充実した10日間を過ごせます。

静宜大学の先生方もとても親切かつ丁寧にアドバイスをしてくださるので、日本でしっかり授業準備をしていけば現地で焦らずに実習に臨めると思います。

実習前の課題や、教案を練るのはとても大変ですが、この貴重な経験はきっと大きな自信になるはずです！本当におすすめのプログラムです。





M.O 日本語日本文学科 2年次生

参加期間： 2019年3月11日～3月20日（10日間）

I. プログラムについて

実際に、現地の雰囲気を感じながら日本語教育を勉強したく、このプログラムに参加しました。参加が決まってからは、台湾の歴史や現在の経済、政治などを調べ、台湾に対する知識を深めました。その後、教案づくりに移ります。今年の実習は、静宜大学の先生から指導する課の指定がなく、「どんなことを教えるか」を考えるとところから始まりました。一から自分ひとりで教案をつくることは本当に難しく、何度も嫌になったり、ずっと悩んでいる時期が続きました。しかし、先生とのメールのやりとりでアドバイスをもらい、修正を重ねていき教案がまとまったときは、何とも言えない達成感がありました。

現地に着くと、お世話になる先生方とお食事会やチューターさんとの交流がありました。緊張と不安で落ち着かなかった私ですが、静宜大学の暖かい歓迎に胸が軽くなりました。とてもうれしかったです。

そしていよいよ自分の担当する授業。授業中のクラスの雰囲気や先生とのやりとりをすでに見学させていただいたためか、不思議と緊張はなく、リラックスした状態で授業に臨むことができました。改善点はたくさんあり、先生にもご指導いただきました。実戦で役に立つテクニックや気を付けること、色々なことを学ばせていただきました。そして、実際に授業をして私が一番よかったなと思っていることは、学生との距離が縮まって授業が盛り上がってくるリアルな時間の流れを体感できたことです。「学生あつての授業」を実感して本当に楽しかったです。

授業外では、チューターさんに台中の色々なところに連れて行ってもらいました。夜市や遊園地など、初めての経験がたくさんでとても楽しかったです。担当した授業の学生が、放課後、夜市に誘ってくれたり、街を案内してくれたり、毎日が充実していました。学生さんたちの優しさに感動しました。

しんどいことも多かったけれど、それを踏まえたうえでも、この実習は最高に楽しかったと断言します。この実習で得た経験は、何にも代えがたい宝物です。心の底から行ってよかったと感じました。

II. 参加希望者へのアドバイス

10日間、決して短くはない期間の実習ですが、毎日が盛りだくさんであつという間に終わります。学生との交流や、寮での生活が日本に帰った後、恋しくなるはずですが、寮のすぐ近くに食堂やファミリーマート、生活館があるのでとても住みよい環境でした。食堂にはいろいろなお店があって、注文するのもドキドキして楽しかったです。ワッフル屋さんやタピオカドリンク屋さんも校内にあります。本当にうれしい。毎日タピオカドリンク飲みました！安くておいしいのでおススメです！

迷っているなら、ぜひ参加してみるべきだと思います。

静宜大学日本語指導実習プログラム(台湾)





M.T 日本語日本文学科 2年次生

参加期間： 2019年3月11日～3月20日（10日間）

I. プログラムについて

実際に現場で教えていらっしゃる先生方の授業を見学させていただいたことが、このプログラムで一番印象的です。先生方は、日本でこれまでに学んだ日本語教育における文型や表現を淡々と教えるのではなく、学習者から日本に対する興味をうまく引き出しながらすすめていて、とにかく衝撃で、自分が文型などを学んだだけで満足していたことに気づきました。何に対しても「自分らしさ」を見出すのは難しいかもしれませんが、現地のプロの授業を見学させていただき、日本での残された2年間の学生生活で「自分らしい授業」を少しでもできるようになりたいと感じました。

II. 参加希望者へのアドバイス

台湾での授業は、ひとことで言うと、すごく緊張しました。普段は人前で何かをすることに何の怖さも感じないのですが、「授業の内容を理解してもらえなかったらどうしよう」という不安に押しつぶされました。そんな実習を終えて、プログラムに参加するか考えている方に伝えたいことは、静宜大学の学生はみんな積極的で、私たち日本人に歩み寄ってくれます。もちろん甘えていい訳ではありませんが、プロではないので上手いかわからないこともあって良いと思います。台湾の人たちはみんなあたたかくて、このプログラムでの経験は、きっと身になると思います。不安も緊張も、楽しんでください。





